

寄稿

「私と憲法」

憲法と言えば学生時代の佐藤功教授の憲法の講義は皆勤であり、最も楽しみな講義でした。その後、社会に出て当時の誰もがそうだったように「企業戦士」として十ヶ所を超える転勤を長年の「単身赴任」などでクリヤーする猛烈社員で「日本国憲法」に触れる機会も殆どありませんでした。定年後は余裕なのか「憲法を守らねば」の気持ちを出しました。ちょうどその頃、地元「長良九条の会」への参加が憲法との再会となりました。

まもなく恩師佐藤功先生の子ども向け本「君たちと憲法」復刻版の発売（二〇一六年）を知り、長良小中学校四校へ「長良九条の会」より寄贈する活動となり、また憲法擁護の活動に加えていただくことになりました。この本では佐藤功は「憲法を変えることの意味」を子どもたちに次のように伝えていきます。（「君たちと憲法」より引用）「今の日本の憲法を、どんなふうに変えてもいいということにはならないということが君たちにも分るだろう。「民主主義」※

※「基本的人権」そうして「平和」

この三つはどうしても変えてはならないことだということだが、君たちにもわかっただろう。もしも、それを変えろということになったとしたならば、それは今まで人間の何千年の努力とそしてこの間の戦争で受けた、あの私たち日本人の大きな犠牲がなんの意味もないということになるのだよ」と説いています。

また、私を憲法に近づけてくれた佐藤功先生の最終講義（一九六二年）を決して忘れることができません。その日は次のような熱弁でした。

「君たちはこれから社会に出て様々な出来事に出会うことであろうが、その中の一つに『改憲の動き』に出会うかも知れない。その時には決して慌てず、世の中の動きに惑わされず、絶対に付和雷同することなく、冷静に自信と誇りを持って日本国憲法を守って欲しい」

と締めくくられたのです。

私は今後自信と誇りのもとに「戦争を支える社会の構築」を許さないために、改憲阻止の活動を続けて行きたい。（井口）

島尻永司さんを追悼します

去る一月二日

島尻永司さんがご逝去されました。

島尻さんは長良九条の会結成の中心者であり、以来、会の発展に尽力されて来られました。

大変有難うございました。それで、

この会も昨年で十五周年を迎えており、その間、島尻さんは小柄な体に癌を発症されて手術後も転移して、入院を繰り返しながらも少しも弱音を吐くことなく精力的に活動を続けておられました。

ここ数年は事務局を辞されましたが、憲法九条を守る集会には、欠かさず夫婦で参加してみえました。

長女のK子さんによれば

「父は、かっこよく生き続けました」と…
本当にそうでしたね。

心からご冥福をお祈りいたします。

長良・岩野田九条の会事務局一同

